

第 55 回インナー大会・プレゼンテーション部門
企画シート

所属	駒沢 大学 松田 ゼミ	
	ナール	
チーム名	チャー班	
テーマ	子ども戦隊 マナビンジャー	
連絡先① (代表者)	代表者名	安倍 伸
	電話 自宅 :	_____
	携帯 :	_____
	アドレス 携帯 :	_____
	P C :	_____
連絡先② (副代表者)	副代表者名	岩淵 翔太郎
	電話 自宅 :	_____
	携帯 :	_____
	アドレス 携帯 :	_____
	P C :	_____
参加者氏名	梶原 樹里 高木 叶子 水谷 汐里	
	(合計人数) 5名	
使用機材	主催者常備機材	参加者持込(有・無)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ PC(PowerPoint 2013) ・ プロジェクター 	なし

※代表者・副代表者名は**参加申し込み時とご変更のないようお願いいたします**。やむを得ずご変更される場合は必ずその旨をメールにてご連絡ください。また、補足資料で紙以外のものを使用する場合は、何を使うか、どのように使うかを参加者持込欄に記入をお願いいたします。

※一次予選のみ小規模教室にはマイクは御座いませんが他の教室には常備されております。
<企画概要>※企画概要は自由記入で A4・2 枚までとなります。

【コンセプト】

私たちの班のコンセプトは活動の中にも楽しさを見出すことです。
例えば何かを立証のデータを探すの1つとってもみんなで工夫をただ探すだけの“作業”で終わらないように楽しさを見つけて行っています。
楽しみながらやることにより先輩、後輩の垣根を越え互いに柔軟なアイデアを出すことができたのを自負しています。

【テーマ設定の動機】

邁進という言葉聞き、この班で一番最初に感じたことは【子どもの成長】というものです。
というのも子どもの成長というものはとても早く、それでいてその時間はのちに感じるような経験だったり今後人間形成に大きく作用します。
私たちは、このかけがえのない時間に自分たちが何をできるのかを考えることにしました。

【テーマに関する現状】

子どもの普段の生活を見てみると、学校、遊び、習い事を日常的生活スタイルにしていることが分かりました。
そのなかで僕たちが介入し、より効果的だと考えたのが【習い事】への取り組みです。
習い事は、保護者も関心が高い傾向や、その道のプロが教えるということもあり、より効果的であると感じました。
また、保護者が勧めることも多い中、子供と習い事の不マッチを保護者が誘発してしまうケースもあり、実際にやる人とお金を支払う人が異なっているぶん難しい現状があるのを知りました。

【調査内容】

私たちの班の調査内容は、現代の児童の生活についての現状分析から始まり、地域密着型の習い事に目を付けて調査をしました。
実際に地域密着型の習い事企業に話を伺い問題点を挙げ、対策する案を考察し、児童向けの活動を行っている NPO 法人や学生団体に話しを伺い、私たちの提案の実現に向け調査を深めていきました。

【問題定義】

習い事をしている子どもは沢山いますが子供が本当に頑張りたいことをしているのかが当初の大きな問題点の一つでした。

そして私たちが解決する必要があるものだと感じました。

子供の意思で選択し、個性や自信などの強みを伸ばすことを、私たちのミッションとして提案に至りました。

【提案】

私たちは、子どもないしと習い事がベストマッチできる空間を創ることで、子どもが大きく成長してもらうシステムを提案します。

具体案としては“マナビンジャーproject”として世田谷の駒沢体育館などの場所をお借りした上で、保護者同伴で子どもを招待し、そこにこの提案に賛同していただいた地域密着型の習い事をブースとして置くことで、合同体験教室を行います。

今回は世田谷区での実施を目論んでおり、世田谷区後援会の申請後、プレイベントを11月に行う予定であります。

【提案に対するメリット】

子供ないし保護者としては、たくさんの種類から選ぶことができることや、保護者と子供と一緒に選ぶことが可能になることで、保護者が納得してお金を出すことができるのではという狙いがあります。

その他、個々の企業にわざわざ行く手間が省けたり、この提案から興味を持って始められることから、子どもの満足度が高くなる傾向があるのでは？と考えています。

【今後の展望】

今後の展望としては、プレイベントをするにあたっての企業とのミーティングを重ねたうえで、イベントの時間等の詳細などの確定を進めていきたいです。

最終的な私たちの目標といたしましては、今後成功を重ねた上でNPOなどに提案し私たちの介入なしでもこの動きが広まることを願っています。